

<別紙> チラシ「新病院植樹祭・森づくり国際シンポジウムご案内」

お願い「植樹祭準備～当日スケジュール表・スタッフ参加可否回答用紙」

<もくじ>

★ ごあいさつ「新病院植樹祭へご協力のお願い」	1
★ 行事報告「森の夏祭り盛況に終わる」	
★ 行事報告「川内村いのちの森づくり植樹祭へ参加」	
★ 近況報告（時ノ寿ブログより）	
7月 9日「伝統の炭焼工法に価値」	5
7月14日「温暖化が起こす異常現象」	5
7月15日「森の力を取り戻せ」	6
7月22日「1万5千本の苗木と対話」	7
8月 5日「工房新築事業の着工」	7
8月16日「SBSテレビ森の防波堤放映」	8
8月18日「NHKが森の防波堤を放映」	9
8月19日「静岡第一テレビで森の夏まつり放映」	9
8月22日「メディアの重要性」	10
8月24日「日本財団の支援による森づくり」	11
9月13日「中学校で森づくり講話」	12
9月14日「森づくりによる安全安心な都市づくり・開発看板建立」	12
9月18日「川内村いのちの森づくり植樹祭」	13

<ごあいさつ>

**「10/27 新病院いのちの森づくり植樹祭」に
クラブ員の皆様のお力を貸してください！**

～経験したことのない22500本・3000人植樹祭成功のために～

暑さ寒さも彼岸までと言いますが、今年の記録的な猛暑・残暑からようやく解放されそうな今日この頃です。しかし、国内外の世情は、心地よい秋風とは裏腹に、気を滅入らせてしまう事件が次から次に起きています。クラブ員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

6年前の9月、豊かな森を未来の子どもたちに引き継ぐために日本の真ん中でスタート

した「時ノ寿の森・海と山をつなぐ森林再生」ですが、この間に起きた社会・自然界の現象や事件は、この活動の必要性をより確かなものにしてくれました。あらゆる生命の源泉と言われる森林、国土の70%を占める森林を社会に生かし共生していくことこそ、文明の転換点に立つ私たちの使命ではないでしょうか。

全国初、袋井・掛川自治体病院統合の新病院「中東遠総合医療センター」が、来年5月1日に掛川市内にオープンします。生命を守る病院にこそ、土地本来の木による「いのちの森」が必要であると思います。いつの日にか、心身の健康を崩し病院を訪れたときに、「いのちの森」の生命力旺盛な木々が悠然と立っていたならば、老若男女どんな方であっても必ず元気が出てくるに違いありません。

この植樹祭は、市民と行政が共に力を出し合い実行します。しかし、「時ノ寿の森クラブ」による「森づくりを通じて安心安全な都市を築いて行く」という熱い理念と実効性を日本財団が認めてくださり、大きな財政援助をしてくれました。NPO法人時ノ寿の森クラブにとりましては、未来に向けての真価が問われていると言っても過言ではありません。6年前の初心である高い目標を達成するため、この植樹祭を成功させなければなりません。

苗木22500本、参加者3000人という経験したことのない大植樹祭ですが、クラブ員の皆様の叡智と情熱が結集すれば、出来ないことはないと確信しています。ご多忙とは存じますが、別紙スケジュール表をご覧くださいの上、準備及び当日へのご参加をよろしくお願いいたします。お手数ですが、9月末までに、電話又はFAXにて参加可否をご連絡ください。

新病院をバックに感動の大植樹祭となるように準備をしています！



植樹地の土づくりを点検する宮脇先生



ここが23000本を植える場所

楽しかった森の夏まつり

残暑の8月19日、会員と家族28名（大人・子ども）は、日常の煩わしさを忘れ、晩夏の時ノ寿の森を満喫し、心も体もリフレッシュしました。2012夏の思い出がいっぱいできました。山や川で自然を満喫している子どもたちの素顔を、静岡第一テレビも放映してくれました。



「川内村いのちの森づくり植樹祭」に6名が参加！

～ 原発事故が及ぼす過酷な現実の中で

豊かな自然を守る純粋な村民の姿に感激 ～

時ノ寿の森クラブと川内村は、震災前の平成 22 年から「いのちの森づくり」を通じ交流が始まりました。今年で 3 回目となる「川内村いのちの森づくり植樹祭」が、今月 17 日川内小学校を会場に行われました。遠藤雄幸村長の「川内には失われてゆく日本の美しい原風景が残っています。神様は、私たちに厳しい試練を与えることで、この豊かな自然を未来に残す大切さを教えてくれたと思っています。」との言葉が、胸に強く残っています。

村長、副村長、商工会長、森林組合長、老若男女の村民有志たち、まさに市民と行政の協働による「いのちの森づくり」に、わがクラブ員 6 名は、汗と泥まみれで作業に当たっていました。片道 500km の道中でも、交流が深まりました。今後も続きますので、みなさんも次回はぜひご参加ください。

来月 27・28 日に掛川市で開催の「新病院いのちの森づくり植樹祭・国際シンポジウム」には、川内村の親子 20 組をご招待する予定になっています。時ノ寿の森クラブとしては、クラブ挙げてあたたかく歓迎したいと思いますので、ご協力をお願いします。



＜近況報告＞ （時ノ寿ホームページ・ブログより）

2012 年 7 月 9 日(月)

伝統の炭焼き工法に価値

昨日（日曜日）午前 10 時過ぎから窯焚きを始めた炭焼きでしたが、一昼夜の窯内燃焼を経て、先ほど（午後 11 時前）窯内の燃焼を止めるため、窯口を閉じ、煙突を取り外して、一連の炭焼き作業が終了しました。私たちの炭焼き作業は、基本的に昔ながらの伝統的な焼き方を継承し、機械化はしていません。窯焚きで、窯内に風を送り込み燃焼を助長する作業も、「うちわ」を人力であおいでいますが、会社人間を卒業したクラブ員の中には、発電機とブロワーなど機械化を図りたいと言っています。



しかし、私は、何事も基本を極めた上で次のステップに移ることが大切だと思っています。炭焼きも、どういう原理で原木が炭化するのかを実体験で学んでほしいと思います。わがクラブにおいて、現段階で炭焼きを機械化するには、時期尚早と思っています。折しも、再稼働した福井県大飯原発がフル運転に入ったというニュースが報じられていましたが、科学の力の裏には大きなリスクが伴っているということを、しっかりと認識したいものです。

炭焼き窯は、超原始的ですが、リスクは何もありません。静かな夕闇せまる山間で、モクモクと煙を吐き出している炭窯を見ながら、先人たちの知恵に感動してしまいました。私たちは、限られた地球上のエネルギーの使い方や作り方を、もう一度しっかりと見つめるときであると思いました。窯の煙が無くなり、窯口を閉じるタイミングを一人山間で待ちながら・・・。

2012 年 7 月 14 日(土)

温暖化が起こす異常気象

3 日前から続いている九州地方の豪雨を、気象庁予報官は「経験したことのない激しい雨」などと表現し、私たち住民の豪雨に対する危機感の希薄さを警鐘している。地球上では、すでに何年も前から自然界のバランスが大きく崩れていて、そのために起こる自然災害の脅威を世界各地で



経験している。我が国でも、昨年来、過去経験したことのない大地震や大型台風、集中豪雨による未曾有の被害を、全国各地で被災している。

3年ほど前になるが、東京大学生産技術研究所山本良一教授が、シンポジウムで温暖化による地球上の危機を憂い、「温暖化抑制対策はもはや一刻の猶予もない」と言われたことを思い出した。その後の昨年3月11日には、そのことを日本人のすべての者に認識させる決定的な出来事が東日本で起きてしまった。自然災害の脅威とともに、原子力に依存したゆえの途方もなく大きなリスクが背中合わせであることを、私たちは他人事ではなく我が身のことのよう実感した。にもかかわらず、昨今の政界や財界の動きには、強い疑問を覚える。その疑問を、直接国民一人ひとりの声として、毎週金曜日には全国で何十万の人々が集っている。

その集いにこそ参加はしないが、わがNPO法人は、日本の真ん中静岡県掛川市において、我が国が最も大切にしなければならない「森林」資源を、国や社会に強く訴求していく運動を、一層強化して行きたいと思う。

2012年7月15日(日)

森の力を取り戻せ



私たち時ノ寿の森クラブの森林再生活動が見直されようとする自然災害が次々と起きている。地球温暖化による異常気象は、もはや地球に生きる生物は不可避な状況に陥っているそうだ。20年程前と比較して、時間雨量50ミリを超える豪雨の年間回数が1.5倍以上に増えているという。これも温暖化によって地表から蒸発する水分の量が過去に比べれば格段に増えているので、気圧の変化によって空気中に保って入れなくなった水分が雨となるのだから、当然に一端降り出せば大量な降雨となるというのが、気象専門家の理論だ。このことは、素人でもうなづける。このような自然の摂理を考えると、地球上の水分を吸収し、地中に保て

るような地表を保全することが大切だ。それは、まさに豊かな森林を造り、維持して行くことに他ならない。

私たち時ノ寿の森クラブは、6年前に本格的な森林再生活動を始めて、9月で満6年になるが、この間に100haを超える森林の間伐など保全管理を実施し、今年度も来年3月までに約50haの間伐を実施する計画だ。NPOのリーダーシップ、森林所有者の理解、地元企業の協力が一つになり、そしてその連携を行政が支援するという仕組みである。

市民と行政のコラボレーションによる「まちづくり」が叫ばれて久しいが、私たちの活動こそ本物の事例ではないだろうか。

2012 年 7 月 22 日(日)

1 万 5 千本の苗木と対話

6 月 2 日に海岸防災林に 15500 本を植樹して、今日で 50 日が過ぎた。この間には、まったく予想していなかった大型台風が直撃を受けた。強風と豪雨は、植えたばかりの柔らかな苗木の葉っぱに、情け容赦なく大量の潮を吹きつけた。翌朝、水を掛けて洗い流したが、潮の被害は厳しかった。海岸部一体の大きな木の葉っぱや、畑の作物の葉っぱもまたたく間に茶色に変色し、葉を落とした。このような塩害の中で植樹した苗木は、よく頑張ってくれた。いよいよこれから、夏本番を迎えるため、今日はクラブ員 21 名のほか地元住民 10 名の参加を得て、15500 本の苗木に頑張ってくれるように一本一本と対話をしながらの草取り・水かけ作業を行った。



一昨日からの気温低下が今日も続いており、曇り空の下で作業には絶好日和であった。気象も幸いしたが、30 名を超える参加者の苗木に対する愛情はとても強く、正味 3 時間の作業により、約 5000 m²に植樹された苗木 15500 本のメンテナンスは一通り完了した。本気の人の力はすごいものだ、あらためて感動してしまった。

苗木は、塩害によって葉っぱが茶色の一部変色しているもの、全部変色しているものなど、自然の厳しさを物語っているが、枯れてしまっているのはごく一部でしかない。よくぞ台風に耐えてくれたものだ、褒めてやりたい。

作業終了時には、これからの酷暑にも耐え抜いてもらいたいと、参加者全員で願いを込めて記念撮影を行った。参加者のみなさんご苦労様でした。しかし、夏が過ぎたころには、夏草が苗木の背丈以上に伸びるため、「草刈り十字軍」を召集するので、その際はよろしくお願いします。

2012 年 8 月 5 日(日)

工房建築の着工

時ノ寿の森クラブは、9 月 3 日が来ると満 6 年です。任意団体として発足



し、広大な荒廃森林の再生に向けて第一歩を歩み始め、この活動の大切さに共感していただいた善男善女の多くの皆様に助けられて、源流部の間伐や植林を手掛け、また本年は海岸部の防災林の植林まで広げることができました。

NPO活動とは、非営利による社会貢献活動で、耳への響きはたいへんいいのですが、5年、10年と初心を貫徹しながら目標に向かって歩み続けて行くことは容易なことではありません。わがクラブも、会員の皆様の「森林再生」への気持ちが持続し、活動に参加したくなるように、初心を忘れることなく、魅力ある活動を創意工夫していく必要があります。

本年度のクラブ活性化事業でもある「時ノ寿工房建築」は、大きな目玉事業です。セブンイレブン記念財団の資金援助を得て、森林再生活動の拠点として、また会員の心の拠り所となるような象徴としての施設づくりです。

いよいよ、先週3日金曜日に基礎工事が着工しました。清水副理事長の設計・施工管理により事業が進んで行きますが、基礎工事や大工工事など、専門性を有する工事は業者をお願いする予定です。素人でもできる工事は、会員みんなで造っていきたいと思っていますので、楽しみにしててください。

2012年8月16日(木)

SBSテレビ森の防波堤放映

昨晚、SBSテレビが掛川市浜野地区で行った「森の防波堤づくり植樹」のことを放映してくれた。番組でのタイトルは「照葉樹で津波対策」だった。私たちの植樹を指導してくれたのは、横浜国立大学名誉教授宮脇昭先生だが、番組では静岡大学増沢武弘特任教授による久能山（静岡市）の照葉樹林調査に光を当て、根が深く伸びる照葉樹林の津波対策効果を発信していた。



静岡県は、南海地震や東南海地震、そして東海地震と三つの大規模な地震が連動して起きれば、駿河湾に面した低地は大津波に襲われる。東日本の尊い教訓を生かすとともに、東海地震など近未来に起こると言われる巨大地震に備え、駿河湾に面した県内自治体が手をつなぎ、森の防波堤づくりを本気に考える時であると確信する。

2012 年 8 月 18 日(土)

NHKが森の防波堤を放映

森の防波堤づくりが、掛川市から静岡県内や全国に広まっていくことを願っている。先週の日曜日は、浜松市の沿岸部に森の防波堤を造ろうと、シンポジウムが開催された。そして、来週 21 日には焼津市で森の防波堤づくりのマウンドに廃棄物を埋めることについての研究会が開催される。掛川市で 6 月 2 日、森の防波堤づくり植樹祭が参加者 1400 人・15000 本と、大規模に行われたのを契機に、静岡県内で市民による動きが活発になっている。結構なことで、大変喜ばしい。そのような動きを、ますます発展させるためにも、掛川市で行った森の防波堤づくりを成功させなければいけない。



植樹は、植えた後のメンテナンスが重要である。特に、海岸部の厳しい環境の中で苗木が根を張るまでは、草刈りや乾燥に気配りしなければならない。そのため、先週 8 月 11 日にも、わがクラブ員と植樹地の地元住民のみなさんと、草取りをしてもらったが、その作業の様子をNHKテレビが、次の日時に放映してくれるそうだ。みなさん、ぜひご覧ください。

＜NHKテレビ放映時間＞

8 月 20 日（月）午前 7 時 50 分からの「おはよう静岡」の中で

8 月 21 日（火）午後 6 時からの「たっぷり静岡」の中で

2012 年 8 月 19 日(日)

第一テレビで森の夏まつり放映

このところ、わが時ノ寿の森クラブの活動が連日テレビで放映されています。私たちの森林再生活動は、参加者の個々の真摯な意識と行動によって成り立っているのです、社会に自分の活動が露出されたいなどと思っている人はいません。しかし、森林再生活動の目標は、その規模も、またそれに要す時間も膨大ですので、その活動に社会のあらゆる方面の人



びとが一人でも多く参加してくれることが大切です。ですから、私たちの活動が社会に広く発信され、誰もが気軽に多様な形で森林再生に参加することができるということを、行動を起こすきっかけになってほしいと願っています。

私たちの活動にテレビ局が関心を寄せてくださることは、森林再生活動をリードする者にとっては、たいへん有り難いことです。各社に心から感謝を申し上げます。

今日は、日頃、汗まみれ・泥まみれになって森林再生活動をしている会員たちを慰労する「森の夏まつり」の1日でした。昨日までの雷雨などの不安定な気象が一転し、猛烈な残暑の一日でしたが、参加してくれた大人24人と子どもたち5人は、谷川や木陰で、森の夏の思い出をたくさん作りました。山から取りたての竹を割り、谷川の伏流水を利用したの流しそうめんは圧巻でした。木陰で飲んだビールも最高でした。スイカ割りでは、大きな立派なスイカがなかなか割れず、子どもも大人も何度も叩きすぎて、スイカの味は下がってしまいましたが、楽しいひとときでした。締めくくりは、会員の中に詩吟を習っている人が2人いまして、OさんとMさんのほか所属する掛川吟詠会の女性3人+男性1人も友情出演してくれて、時ノ寿の森初めての「森の詩吟会」になりました。ヒグラシの声が聞こえる晩夏の森に、美しい吟詠が響き渡っていきました。

こんな、わがクラブの老若男女が森を楽しむ「夏のイベント」の様子を第一テレビ局が取材に来てくれました。そして、早速に今晚8時54分から、子どもたちが森の自然を満喫している様子が放映されていました。この子たちにとっては、今年の夏休みの最高の思い出になったに違いありません。

2012年8月22日(水)

メディアの重要性

この世の正義を世界中の人びとに対して、紛争地域から命を賭して訴えていた立派な女性ジャーナリストの命が、戦場の狂鬼によって奪われてしまった。亡くなられた山本美香さんは、紛争で最も犠牲になりやすい女性や子供の生活を世界の人々に伝えることを一番大事にしていたという。山本さんが、早稲田大学のジャーナリスト志望学生に講義したときの一節の言葉が報じられていた。「社会にはさまざまな考え、職業、立場の人たちがいます。メディアの世界に身を置くと、力を持っていると勘違いしてしまうことがあります。高みから物事を見るのではなく、思いやりのある、優しい人になってく



ださい」と。

メディアに関係する人だけではなく、私たち一般人にも通じる素晴らしいメッセージだと、感動してしまう。

ここ何年かの間、廃村集落を拠点にして、荒廃する森林の再生活動を地道に続けてきて、御縁によって何人かのジャーナリストの方々と親しく接する機会を得たが、私たちのような活動に視点を向けてくれるジャーナリストは、まさに山本さんの言葉のとおりの方々であつたと尊敬する。

最近、取材を受ける機会がたくさんあるが、私たちのような社会活動に限らず、政治も経済も、教育も道徳も、犯罪も被害も、自然災害も、この世のすべての物事について、現実を正確に伝え、正しい方向性を示唆してくれるメディアが必要だと思う。

正義を貫き、道半ばで凶弾に倒れた山本美香さんのご冥福を心からお祈りします。

2012 年 8 月 24 日(金)

日本財団の支援による森づくり

静岡県掛川市と袋井市は、両市の自治体病院を統合し、この地域の二次医療を完結できる基幹病院を新築しています。施設も設備も莫大な建設費が投じられ、最新医療にふさわしい立派な病院ができると思います。そして構内も、きれいに緑



化されると思いますが、市民として希望を言わせていただくなら、緑化はいのちを守る病院にふさわしく、いのちの源泉と言われるような多種多様な樹種のかつ生物も生息するような「本物の森づくり」がしたいと思います。

そんな希望が、市民が主体となり行政が協働して実現することになりました。新病院に、市民の森を造ろうという市民主体の活動に対して、日本財団が資金援助をしてくれることになりました。大変にありがたいことです。

日本財団とは、「国ではできないこと、国の政策が行き届かない問題はたくさんあります。このような問題を、みなさまと一緒に解決したいと思っています。」との理念で、ボートレースを財源に活動している民間の助成団体です。

また、この森づくりには、毎日新聞社も社を挙げて応援してくれることになっています。まさに市民と企業と行政がコラボレーションして、それぞれの持ち分を発揮して、共通の目的を達成させようというものです。新しい公共とは、よく耳にしますが、どういうものなのでしょう。

2012 年 9 月 13 日(木)

中学校で森づくり講話

きょうは、掛川東中学校三年生全生徒（約 180 名）を対象に、NPO 時ノ寿の森クラブが取り組む森林再生活動を話す機会をいただきました。大変光栄なことに、同中学校の「総合的な学習時間」の講師として依頼を受けました。

30℃を越す残暑の午後でしたが、体育館のフロアーに行儀よく座っている 180 名の生徒の前で、58 歳の先達として、歩んできた道のりとともに、「ふるさと」

に感謝し「ふるさと」を次代につなぐために取り組んでいる「未来の子どもたちのための 山から海までつなぐ いのちの森づくり」を熱く語ってしまいました。

地球温暖化、文明社会のひずみを起因とする各種の人為的事件などが頻発する現代社会において、多感な中学生たちが、夢と希望を持って「ふるさと」のために自分は何をするかを考えるとき、私の話しが彼らの心にどれだけ残ったかは分かりませんが、講話中の生徒たちの目は、とても美しく見えました。私の話しの良し悪しに関係なく、掛川東中学校の教育環境は、現在の世相とは裏腹に、とても素晴らしい状況であると思いました。

掛川東中学校三年生の諸君、自分の気持ちに正直に、大いにチャレンジして行ってください。そして、迷った時には、自分の歩んできた道を出来るだけ詳細に振り返ってみてください。きっと何かが見えて来ると思います。ふるさとは、いつも君たちを見ています。そして、いつでも待っています。



2012 年 9 月 14 日(金)

「森づくりによる安全安心な都市づくり」啓発看板建立

去る 6 月 2 日に静岡県掛川市浜野地区で実施した「いのちを守る『森の防波堤づくり』植樹祭」は、100 キロにも及ぶ遠州灘海岸地域を豊かな防災林でつなぐための「はじめの一步」です。

駿河湾を震源とする東海地震をはじめ、先日政府が発表した南海トラフで起きると言われる巨大地震により、遠州灘には10



m～19mの大津波が襲来すると予想されています。

森林はあらゆる生物の生命の源泉と言われますが、この森の防波堤構想は、まさに地域住民の生命を守るための森づくりです。巨大な地震災害と地球温暖化も相まって、これからの気候変動は想像を絶するようなことになるかもしれません。現に今、沖縄南方海上を北上している台風16号の衷心付近の最大瞬間風速は80mだそうです。

今を生きる私たちの最大の使命は、安全な都市づくりであり、そして誰もが参加できる森づくりこそ、国挙げて始めるべき国づくりではないでしょうか。今年度、私たちNPO法人時ノ寿の森クラブは、日本財団の大きな財政支援をいただき、行政とも協働し、そのような理念の基で静岡県掛川市において、森づくりによる安全安心なまちづくりを推進しています。

このたび、全国及び世界に発信していくため、6月2日に実施した「いのちを守希望の森づくりプロジェクト第一弾・森の防波堤づくり植樹祭」の啓発看板を、植樹会場の静岡県掛川市浜野地内の防災林に建立しました。みなさん、ぜひ見に行ってください。

2012年9月18日(火)

川内村の植樹祭

豊かな緑と水に恵まれた日本の原風景とも言える人口3000人の福島県川内村は、大震災以前の一昨年9月に、この豊かな川内村の自然を後世に引き継ぐために、市民と行政が協働して「いのちの森づくり」を始められました。

昨年の大震災による原発事故によって全村民が村を退去させられた昨年9月も、そして、いち早く帰



村宣言をされた今年も、まだ村民の20数%しか村に帰られていない厳しい現実の中で、村長筆頭に村の有志たちの熱い思いに率いられ村民80名ほどが集まり、昨日9月17日に、第3回川内村いのちの森づくり植樹祭が開催されました。

遠藤雄幸村長は、植樹祭開会に当たり、いのちの森づくりを始められた初心を述べられました。その中で「川内村には失われていく日本の大切な原風景が残っている」と……。そして、昨年の大震災によって全村民が過酷な生活を余儀なくされていますが、それも、文明社会の中で大切なものを忘れてはならないということを、神が私たちに与えてくれた「試練」であるともおっしゃっておられました。すでに1年半も続いている非常事態の中で、村民に希望を持ってもらえるように行政を率いる遠藤村長の前向きな姿勢、そして笑顔には感動させられました。

また、昨年も今年も、市民レベルから村民の気持ちを川内につないで行こうと、いのちの森づくりを先頭で支えている井出商工会長さんや秋元森林組合長さん、さらに県外からの私たちのような応援団を温かく迎え入れて泊めてくださる村のご婦人のみなさまの人間味には、感激してしまいました。感謝の気持ちと共に、これからも末永い協力を自分の心に強く刻みました。

植樹の指導をしてくださる宮脇昭先生も、2年や3年で終わる森づくりなどは、本物ではない。厳しい逆境にも耐え、いのちを守る森づくりを川内から世界に発信して行こうと、遠藤村長を称えとともに、3年後には川内村で「いのちの森づくり国際植樹祭・シンポジウム」を開催しようと大きな目標を提起されました。

3年前に始まった川内村と時ノ寿の森クラブとの交流による「いのちの森づくり」ですが、回を重ねるごとに、その大切さを痛感いたします。来月27日に静岡県掛川市で開催する「いのちの森づくり植樹祭」には、ぜひ川内村の多くのみなさんにご参加いただきたいと思います。心から歓迎いたします。